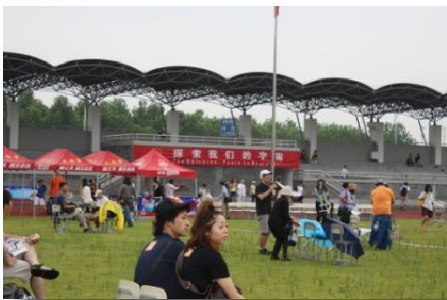


# Heavy Rain (ヘビイ・レイン)

内山 和俊 (1967観望)

1983年6月のインドネシア皆既日食以来、26年ぶりの遠征となった。当初、屋久島での観測を計画していたが、入島制限や気象条件などから、中国・上海への遠征を選択した。7月21日中部国際空港から上海へ。翌日の本番を考え、早く就寝することにしたが、現地のテレビ局の天気予報を見ると、翌22日の上海の天気予報は、HEAVY RAIN。

22日早朝 午前4時30分に上海を出発し、バスで約2時間の距離にある浙江省・嘉興市へ移動。観測場所は北京師範大学附属学校のグラウンド。



ここでは約400人が観測するとのこと。学校に到着すると、たくさんのバスが並んでいた。小雨、少し経つと、雨が止んだので、グラウンドへ、日食開始20分前に雲の切れ間から太陽が顔を覗かせる。これなら行けると胸が高鳴る。しかし、雲行きが怪しくなる。雨がポツポツと降り始める。そのうちに雨脚が強まる。我慢していたが屋根付きの観覧席へ移動する。あっという間に豪雨、雷鳴、しばし呆然と空を眺める。

しかし、幸いなことに皆既直前に雨があがり、避難していた人たちがグラウンドに戻り始める。周りが薄暗くなってきた。突然、真っ暗になった。皆既の



中心だ、あちこちからうめき声にも似た歓声が上がりに、携帯カメラが光る。やがて、地平線が少し明るくなってきた。皆既が終わった。

皆既が終了すると、おのこの機材の後片づけを始めた。そして、バスで日食の全行程が終わるまで、待機、そのうち雲の切れ間から復元する太陽が姿を現した。うっ憤をほらすように、皆さん一斉にカメラのシャッターを切っている。

かくして、雨中の皆既日食という特異な体験は終わった。

観測地点：浙江省・嘉興市  
緯度 30.744  
経度 120.703

